

令和3年度における地域包括支援センターの特色ある取組について

区	センター名	特色ある取組
中区	基町	コロナ禍で住民の外出機会が減る中、センター前にベンチや「なんでも伝言板」を設置し、住民が一休みしながら交流し、地域の情報が得られる場とした。伝言板での情報発信には、地域の人材を活用した。
	幟町	基本チェックリストの傾向を地域別・分野別に分析し、地域課題の把握に活かしている。「地域課題を一緒に考えてもらいたい」という思いから、医療機関の看護師を講師とした研修会を積極的に行っている。
	国泰寺	コロナ禍で地域支え合い事業の運営委員会開催が難しい中、見守り支え合う意識を持ち続けていただくために手引書を作成した。また、協力員の生の声を聞くためにハガキを送付して状況確認を行った。
	吉島	地区担当の職員が、地域課題を踏まえた地域全体へのアプローチと個別ケース対応を重ねる中で、住民に「地域にいる自分たちだからこそできること」を考える意識が醸成され、互助力が高まってきている。
	江波	高齢者地域支え合い事業において、役員と何度も協議を重ね、拠点やいきいきポイント事業と連動する仕組みを作り、近隣ミニネットワークとの整理を行った。登録者が約2倍に増加し、活性化した。
東区	福木・温品	開催場所の事情により認知症カフェが閉店した。地域住民の集まる場が少ないこと、認知症のある方が免許返納後に行ける場がなかったことから、住民と協議を重ね、新たなカフェの立上げに至った。
	戸坂	地域団体と協働した「さんぽの会」の開催、ウォーキングの立上げ、圏域内の全グラウンドゴルフに参加して活動状況の把握を行う等、屋外の活動支援を積極的に行い、広報誌で住民に広く周知を行った。
	牛田・早稲田	医師のオンライン会議参加可能リスト作成について医師会に働きかけた。また、地域共生社会の視点で、神社へのウォーキングで障害者作業所がパンを販売できるよう調整し、児童の専門職との連携も行った。
	二葉	圏域内の課題である 8050 をテーマに多職種情報交換会を行った。オンライン開催で専門職の参加が増え、事例や地域団体の話から地域の実態を知ってもらい、問題意識を共有できた。参加者からも好評だった。

区	センター名	特色ある取組
南区	大州	多職種連携において、圏域内の医師と相談しながら、住民も交えた摂食嚥下の研修会を開催した。事前準備を念入りに行ったことで、専門職と住民双方の満足度が高い研修会となり、相互理解も深まった。
	段原	医療機関と介護保険サービス事業所のメーリングリストを作成し、日頃の情報共有や、アンケート結果のフィードバック等に活用した。また、銀行との定期的な会議を継続し、個別ケースでの連携も深まった。
	翠町	自宅でできる運動等について、センター職員が出演して動画収録し、YouTubeで範囲を限定して公開することで、コロナ禍においても地域住民のモチベーションや運動機能が低下しないよう働きかけた。
	仁保・楠那	認知機能低下がある高齢者等に対し、銀行、スーパー、コンビニ、美容院、飲食店等、圏域内の様々な企業等と連携して支援した。銀行にはセンターの案内ブースを作り、年数回の情報交換も行った。
	宇品・似島	個別見守りが難しくなった地域で、他事業との連動性を意識した上で住民と他の方法を検討し、通いの場を立ち上げて見守りを行うこととした。把握した課題は自治会と共有し、役割分担して対応している。
西区	中広	認知症地域支援推進員や生活支援コーディネーターと合同ミーティングを開催し、コロナ禍での地域の状況を共有し、認知症カフェ立上げや研修の協議を行う等、認知症地域支援体制づくりの充実を図った。
	観音	12年間継続している圏域ケアマネ事例検討会・研修会において、ケアマネやセンター職員の記録面での技術の底上げを図るため、生活支援記録法（F-SOAI）を取り上げた。多くの参加があり、効果も上がった。
	己斐・己斐上	西広島駅周辺の再開発に伴い、周囲の人との関係が途切れたこともあり認知機能低下が進んだ事例があったことを地域課題の1つとして捉え、圏域内の多職種情報交換会・事例検討会において共有した。
	古田	ケアマネ勉強会の際に、ケアマネが社会資源を容易に把握できる機会が少ないという意見があったことから、誰もがいつでもどこでも把握できるよう、QRコード付きの圏域の社会資源集を作成した。
	庚午	若い世代も参加している、地域振興を目的とした「庚午未来会議」の取組で、圏域独自のアプリがリリースされた。既存の見守りと連動させた、ICTを活用した見守りを搭載できるよう協議を重ねた。
	井口台・井口	見守り協力員、登録者、ケアマネに行った「暮らしのアンケート」が、生活支援体制整備につながる一助となった。また、地域により課題が異なることから、6回に分けて小単位での協力員交流会を開催した。

区	センター名	特色ある取組
安佐南区	城山北・城南	センターの主任ケアマネと保健師が、それぞれの視点で全新規ケースのケアプランをチェックしてフィードバックした。1年継続し、センター全体の介護予防ケアマネジメントの質向上につながった。
	安佐・安佐南	民生委員やケアマネからの要望により始めた、交流を重視した情報交換会をオンラインも活用して継続している。参加者に好評で、日頃の連携も深まっている。消費者被害防止につながった事例もあった。
	高取北・安西	地域を細かくみる必要性を感じたことから、自治会・町内会単位での地域課題の抽出や、地域ケア会議の推進等を行っている。地域に出る際は目的や目標をそのつど整理し、センター内で共有している。
	東原・祇園東	圏域内の主任ケアマネが地域でスーパーバイズの役割を果たせるよう、ネットワーク会議を毎月開催した。地域をみる視点や組織マネジメントの視点等からの密な情報交換により課題の共有・解決を図った。
	祇園・長束	センター業務とSDGsの「ゴール」との関連を考えておいたことが、企業との連携を深める一助となり、銀行で行った認知症のある方への声かけ訓練や、スーパーでの介護予防の取組の検討につながった。
	戸山・伴・大塚	様々な場面でのつながりが機械的にならないよう、対象者の個性や背景、環境等を熟慮した上でマッチングを行っている。支援者同士についても、効果的に連携できるよう工夫してマッチングしている。
安佐北区	白木	自宅への訪問が難しくなったり地域活動が停滞したりする中で、問題が潜在化していると感じたことから、地域住民がよく利用するスーパーの一角を借りて出張相談を行い、相談ニーズの把握に努めた。
	高陽・亀崎・落合	年間計画を事業ごと、地区ごとに可視化し、目に入る場所に貼って管理しており、PDCAサイクルを意識した事業実施に努めている。また、相談の分析結果を地域ごとにまとめ、会議等で活用している。
	口田	金融機関と連携して日頃の個別対応を行っているほか、多職種情報交換会に出席して情報提供をしてもらったことで、地域の状況が共有できた。このことが金融機関での定期的な出張相談にもつながった。
	三入・可部	認知症地域支援推進員と連携し、認知症カフェがなかった地域への立ち上げ支援を行った。地域住民が具体的にイメージできるよう、事前に研修会を行い、機運が高まったタイミングで集中的な支援を行った。
	亀山	老々介護の末の事件をきっかけに、地域団体や専門職を集めて地域ケア会議を複数回開催した。地域課題の掘り起こしや、取り組めることについての協議を重ね、男性介護者の会の立ち上げにつながった。
	清和・日浦	コロナ禍で地域活動が中止になり、参加者の体力・筋力低下が見られたほか、世話人のバーンアウトも課題として把握した。通いの場の充実や頻度の見直しを行うと共に、世話人とも密に連携し、支援した。

区	センター名	特色ある取組
安芸区	瀬野川東	学区ごとのPDCAが5年目となった。頻回に振り返りを行い、随時の計画修正と、目的意識と根拠を持った関わりができています。担当以外も一緒に計画・評価を行い、内容の濃いアイデアが多く出ている。
	瀬野川・船越	民生委員とケアマネが地域住民を一体的に支援していけるよう、情報提供の同意が得られた要支援の方をまとめた名簿を作成し、対象者ごとの担当者を一覧にして、双方に提供する仕組みを作った。
	阿戸・矢野	ケアマネへのアンケートから、ケアマネ連絡会の進め方を検討した。より効果的な会になるよう、単なる事例検討会ではなく、ベテランが多い特性を活かして新人が気づきを得られる場になるよう調整した。
佐伯区	湯来・砂谷	コロナの影響で拠点の休止期間が長くなる中、地域住民のモチベーション維持等を目的に、リハビリ専門職からの応援メッセージの音声を届けたり、各拠点の紹介を冊子化して配布したりした。
	五月が丘・美鈴が丘	多世代を対象とした担い手の確保が課題であり、若い世代の視点での地域の強み発見にもつなげたいという思いがあり、区と大学との連携協定を基に、「地域つながるプロジェクト」に継続して取り組んだ。
	三和	地域住民に、地域の良い点や課題を地図に直接書き込む等のワークショップ型研修を行った。把握内容は地域団体にフィードバックし、まちづくり計画作成の参考となったほか、センター業務にも活かした。
	城山・五日市観音	医療機関の面会制限の影響等もあり、在宅看取りの相談が増加しているが、経験のある専門職はまだ少ない。「この地域は看取りができる」と胸を張って言えるように、経験を共有する研修会等を行っている。
	五日市	地域団体の要望もあり、防災担当の行政職員が講師の研修を行い、民生委員とケアマネで要支援者の避難等について情報交換をした。また、支え合い事業で防災面での課題解決に向けた協議体が立ち上がった。
	五日市南	高齢者地域支え合い事業において、登録者と分かるキーホルダーを作成して商店街での見守りを継続する等、地域の方の負担を減らしつつ、効果的な見守りができる方法を検討し、登録者も増加した。